

SPF室利用手引き

令和1年9月27日作成

1. SPF室入室について

- 動物感染対策のため入室順は以下を厳守する。逆を認めない。
*免疫不全動物飼育室→第2 SPF 飼育室①→第2 SPF 飼育室②→本館 SPF 飼育室②→本館 SPF 飼育室①→本館その他の飼育室
※入室順が逆になるときは、全身シャワーを浴びた場合のみ入室を認める。
※免疫不全マウス専用飼育室は、関係者以外立ち入り禁止！
- 入室前に、前室で手指を消毒する。
- 専用のスリッパに履き替え、更衣室に入る。
- 滅菌済み無塵衣、帽子、マスク、ゴム手袋を着用する。
- 専用の長靴に履き替える
- アルコールを用いてゴム手袋の上から手指の消毒をする。
- エアシャワーを使用して粉塵等を取り除く。（第2 SPF室のみ）
- 薬液パッドを踏んで各飼育室に入室する。

2. 持ち込む物について

- 持ち込む物は、滅菌あるいは消毒の上、パスボックスを介して持ち込む。
※パスボックスは『カチッ』と音が鳴るまで押して閉める。
- 長期間放置しない。

3. 飼育について

- ケージには、所定の飼育カードに必要事項を記入したものを掲示する。
- ケージ交換は週1回おこなう。
※臭気とケージ内のアンモニアレベルによって回数を増やす。
- ケージ交換はテーブルの上で必ず行う。※床上での交換は禁止！
- マウスや床敷を触った後、手指をアルコール消毒する。

SPF室利用手引き

令和1年9月27日作成

- 交換後、散らばった床敷や糞は掃除し、テーブルなどはアルコールをかけて消毒する。
- 使用済みの飼育具（ケージ、フタ、給水ビンなど）は、パスボックスを介して所定の場所に運ぶ。
- 繁殖を行う場合、少なくとも週に一度は動物の状況を確認、適切な管理をする。
- 離乳後（約4週齢）の産仔は親の収容ケージから分ける。ケージ内頭数を適正な状態に保ち、動物の福祉に配慮する。
- 原則として収容頭数は、マウス大ケージ5匹、マウス小ケージ3匹、マウスSケージ1匹とする。（離乳後の仔マウスも同様）
- 長期間管理を怠っている場合、部門長の判断で利用を停止させる場合がある。
- 飼育室において、投与等の簡単な処置を行うことができる。
- 使用後の体重計・麻酔器などは、洗浄やアルコールをかけて消毒する。

4. 退室について

- 作業終了後は、手指をアルコール消毒して退室する。
- 帽子、マスク、ゴム手袋は専用ゴミ箱へ捨てる。
- 無塵衣を脱いで着用済み無塵衣用ボックスに入れる。
- マウスを搬出する場合は、パスボックスを介して搬出し、輸送箱に入れて持ち運ぶ。 ※一度搬出したマウスは再搬入しない。
- パスボックスは使用后、殺菌灯をONにする。